

SAH×探究 2年探究活動発表会 報告II

前号に引き続き、探究発表会を終えての2年生の感想を4ページで紹介します。(編集 教頭)

2/17 探究発表会を終えての感想 (前号の続き)

①探究のテーマ ②探究活動の内容 ③探究をおこなったのふりかえり(課題、新たな発見・疑問など)

①未来を切り開く力 女性の社会進出と共に進む未来(2年)

②テーマ設定のきっかけ「女性の社会進出」という言葉を聞くと、女性は管理職に就く人が

少ない、家庭との両立が難しいといったイメージはいまだに社会に残っている。そこで、

女性も働きやすい環境づくりのために行われていることなど女性の社会進出の現状や課題を知り、自分たちの将来や進路について考える手がかりにしたいと思ったため。

仮説企業が働きやすい環境を作ることによって女性が働きやすくなるため女性の働くことに対する意識が高まり、女性のキャリアアップや労働人口の増加に繋がるのではないかと

検証方法サンヨー食品、群馬県庁労働政策課の方々に女性も働きやすい環境づくりのためにやっていることなどを伺う

外部への質問内容◇女性が活躍するために高校生のうちにしておいた

方がいいこと◇今後のキャリアや昇進に関する考え◇女性の働きやすい

環境をつくるために意識していること。何が必要か?◇管理職に占める

女性の割合◇今後さらにジェンダーに関する課題や取り組みたいこと

検証結果(訪問先で得られた結果)

◇サンヨー食品・・・働く女性にとって家庭と仕事の両立は困難なため、

キャリアや昇進について考える余裕がない。管理職に占める女性の割合は 4/109 人であり依然として低い傾向にある。

企業として一人一人が働きやすい環境を作ること意識し、管理職に占める女性の育成、環境整備に努める。今私達にで

きることは、時間のある高校生のうちに様々な経験を積んでいくことと今を全力で取り組むことであり、ジェンダーにと

らわれない支援を行うことが社会に求められている。

◇群馬県庁労働政策課・・・現在の人々はアンコンシャス=バイアスという無意識の思い込みを抱えている。特に女性は自

尊心が低く社会進出が進まないため、決めつけをなくし、何事にも興味をもって全力で取り組むことが大切。また柔軟性の

ある働き方が必要で外国人、高齢者、性別などにとらわれない職場を作るという企業の意識変革が大切である。さらに、管

理職の女性を増やすことは企業への心理的安全性をもつことなので、職場で安心して自分の考えや気持ちを話せる状態

をつくることで主体性や新たな学びを引き出せる。

2年探究活動の「内容」

①自分が興味・関心のあるテーマ・課題の設定・・・フィールドを地域(主に前橋市)、学問に設定

②探究活動の中で外部機関(自治体、企業、大学、研究所等)を訪問し、新たな知見を獲得、自分達の解決案の提案、考えをぶつける

③2月に探究活動のまとめを発表「成果発表」の側面はあるが、探究活動の「経過・過程」の発表を重視

探究の時間グループワークの様子



考察女性の社会進出が進むことは、単に女性が働く場を広げることではないため、「性別で役割を決める社会」から「個人の力で評価する社会」への転換が必要。高校生の今、多様な経験を積み主体性を育てることは、将来その変化を担う力になる。そして、女性の活躍は社会全体の可能性を押し広げる原動力となる。また、無意識に植え付けられた考え方、周囲からの影響など意識的な問題が積もって日本の現代社会にあらわれている。そのため、個人の意識改革をし、周りを気にしないマインドの育成が必要だと考えられる。

◇私たちにできること ・理解し合い、尊重し合う・お互いが過ごしやすい環境づくり

・固定概念をなくす・一人一人が力を発揮できるような場面づくり

③今回の探究を通して、女性の社会進出には制度を整えるだけでなく、企業や社会全体の意識や職場ごとの環境づくりなど意識的なところから取り組むことが必要であると分かった。しかし、具体的にどのようにすれば働く人ひとり一人の意識を変えることができるのかが今後の課題となっていくのではないかと感じた。さらに、女性の活躍が進むことで職場の心理的安全性につながり、一人一人が働きやすく自分の意見を伝えやすい職場環境をつくることができると感じた。今回の活動の中で自分の将来や働き方についてより深く考えるようになった。また、2つの企業の方に直接話を聞くことで、物事を客観的に捉えることの大切さを学ぶことができた。今後は固定概念にとらわれず、広い視点で物事を捉えられるよう意

識していきたい。また、今後の進路選択や将来に活かしていきたい。

【所見・アドバイス】制度だけでなく、意識、環境作りと多面的な視点からアプローチする必要があることに気づいている点が素晴らしい。さらに、「意識を変えるにはどうしたらいいのか？」という一番の核心にもたどり着いている。さあ、このテーマの解決、改善に向けて、どの分野からアプローチしようか？意識を変えるには「教育」？合意する人を増やして行くには「政治」？法律を作れば社会が変わっていくなら「法学」？企業の中から変えていくな「経営」のマネジメントを学ぶ？どうマインドを変えるかという視点なら「心理」？進路の選択肢が広がるね。



探究の時間グループワークの様子②

①若者が暮らしやすい街をつくるには(2年 森川心晴)

②元々少子化について調べようとしていましたが、調べていくうちに過疎化が原因なのではないかと思い、過疎化をテーマにしました。様々な視点から見るために、市の施設、県庁、市役所だけでなく交通の面からも調べるためにバス会社にも質問しに行きました。具体的な過疎化対策を聞き、それぞれの共通の課題を考察しました。

③過疎化について調べて、県と市、企業や県民など色々なところと協力しあう必要があるという課題を見つけられました。たくさん企業に直接話を伺ったので、発表に向けての準備やまとめ作業は大変でしたが、その分様々な視点から考えることができたので、課題をより客観的に考えることができました。過疎化を改善するためには、高校生などの学生も関心をもつ必要があると今回の探究活動でより感じたので、積極的に地域に関わりたいと感じました。

【所見・アドバイス】若者がこういうテーマに関心を持ってくれること、若者目線でのまちづくりは、社会や大学はとても歓迎します。「協力し合う必要があるという課題」は、それぞれが、どのような分野を、どのように協力し合うと改善、解決に向かうのでしょうか？過疎化の解決を「過疎化を食い止めること」と仮定すると、若者が結構な数その地域にとどまる、または移住してもらう必要があると思いますが、そうなるような方策・提案はありますか？2周目に入り、こういうところまで突っ込めるといいと思いますよ。「うまくいっている地域」を調べても面白いよね。

①公共交通機関を使いやすくするために～自転車事故との関係に着目して～(2年)

②群馬県ではあまり公共交通機関が使われていないイメージがあったのと、群馬県では中高生の自転車による事故が全国的に見ても多いという現状があった為にこのテーマを設定しました。私達は事故の発生時間帯を見た時に朝の時間に事故が多く、中高生の通学時間と重なっていることから朝の自転車事故は中高生の通学時に発生している物である可能性

が高いと考えました。私達はインターネット上の資料や市役所の方々への直接の質問を通して調査を行いました。まず初めに前橋市の現状についてインターネットで調査し、交通不便地域の存在や定時制が十分に確保できていないという課題があることを知りました。時刻が安定していないと通学には使いにくい為、結果として自転車通学を選ぶ生徒が多いのでは無いかと考えることができました。市役所への訪問の際には、交通不便地域についての対策やバスの定時性の確保、その他の公共交通機関を使いやすくする為の工夫などについて質問に答えていただきました。これにより、公共交通機関を使いやすくする為に施策についてよく知ることができました。調査を通して、群馬県で中高生の自転車事故が多い背景には公共交通機関の利便性や定時性が関連している可能性があることがわかり、前橋市では公共交通機関を使いやすくする為の取り組みが行われていることがわかりました。これらのことから、安全策の指導だけではなく公共交通機関をより使いやすく、安心して使えることが大事では無いのかと考えられました。

③スライドに文字が詰め込みすぎて見づらくなってしまう事があったり、資料をどこに入れるか悩んだり、レイアウトに四苦八苦し。大量にある資料の中から自分の探している事を探し当ててわかりやすいように噛み砕く作業は大変ではあったが、今後役に立つ技能だと思えるので、今回の探究で使えて良かったと思う。外部の人と連絡を取り、質問に答えてもらうのはあまり無い事なので緊張したが、自分が調べるだけでは及ばなかったような情報も得ることができたので、こういったことには慣れておくと将来に良いのかもしれないと思った。そして、友達の素晴らしい働きには感謝しか無い。



①公共交通機関を使いやすく(2年 平沢拓夢)

②群馬県で自転車事故が多いという課題に着目し、事故の背景

として公共交通機関の利便性の低さが関係しているのではないかと仮説を立てた。そこで調査範囲を前橋市に限定し、前橋市役所を訪問した。市が取り組んでいる公共交通機関の利用促進策を調査し、それらが自転車事故の減少につながる可能性について考察した。

③この探究を通して高校生が安心して利用できる環境を整えることが大切だと考えた。また、他の地域との比較やアンケート調査の実施などをするでもっと説得力の持った探究になると考えた。

【所見・アドバイス】「発表の仕方」についての課題をあげていますね。どんなにいいこと、いい発表を話そうとしても伝わらなければ意味がないよね。「どう相手に伝えるか」ということを鍛えていくことはとても大切です。「どう見せるか」なら情報・メディア系に進学しても面白い。そして、「説得力」が大事、そう、根拠が探究・研究にとって大事だということに気がつけている点も素晴らしいね。一方、テーマも公共交通機関と自転車の交通事故の関係を絡めた点はとても目を引くと思います。ただ、今回の結論としては一面的すぎるので説得力には少し欠けますね(発表を見させてもらいました)。朝の事故が多い要因はもっといくつかあると思います。事故の形も複数あると思います(車と自転車、自転車と自転車、自転車と歩行者、さらに高校生、高齢者、社会人などによって何か傾向が変わるのかなど)。2周、3周していくとしっかりとした原因が解明されそうですよ。さらに、公共バスをここにどう絡めていけばいいのか、本気で探究をしていこうとすると、大学、そして就職してまで関わられそうなテーマです。地域政策、総合政策系でどうだ!

①自習室の増設について(2年)

②テーマ設定現在利用できる自習室が一部に偏っていたり単純に少なかったりするため。



仮説増設するには様々な条件が必要→それを満たす

検証方法アクエル前橋への直接訪問

質問内容・会員制の理由・利用者は増加しているか・職員の方の負担はどうか・学習室設置の条件はあるのか

・会員制の理由→高校生だけで安心感を+個人情報を得ることで不足の事態に迅速に対応するため

- ・利用者数の推移→利用者は年々増加傾向、職員の方の負担はあまり大変というものではない
- ・学習室設置の条件→補助金が貰える制度は国が定めている補助金対象に学習室が当てはまるから
- ・増設するには⇒市と企業が一体となって取り組み、国から補助金を得て、補助金を得るための業績報告をし、施設の管理、運営をすること

③探究活動を通して、やはり普段の生活の中では経験することができない企業との連携が探究活動の中で一番の利益であると感じました。今回の私たちの訪問では、下調べがあまり行き届いていなかったため、自分たちの甘さを実感しましたが、経験しておいて良かったと思えるものでした。そのような小さな積み重ねが大事になってくるのだと思い直しました。質問の中で適切な敬語を使い、自分たちなりに仮説を立てた上で質問をすることで、考えるという行為が強く現れていたと思い、それぞれの進路にあった探求をしているので、全力で取り組むことが自分たちの将来に繋がる貴重な体験ができたと感じました。

探究の時間グループワークの様子③



【所見・アドバイス】「近くに(できれば無料、遅い時間までやっている)自習室がほしい」という自身の身近な思いから出てきたテーマですが、そう考えている中学生・高校生は多く、一定のニーズがあるテーマと言えますね。仮説で考えた「様々な条件」は質問してどうでしたか？仮説どおりでしたか？全く違いましたか？違ったものはどうして違いましたか？もう一度「仮説」を立て直して「増設」という解決に向かうことを考えていくといわゆる「探究の2周目」となり、深まった探究活動となります。「経営・運営の仕組みを理解しました」で終わるのはもったいない。

①空き家問題(2年 高橋伶弥)

②私は探究活動において、地域の空き家問題について調査・考察を行いました。きっかけは、自宅周辺に管理されていない空き家が多く見られることです。老朽化した建物が放置されている現状に不安を感じ、特に地震や台風などの災害時に倒壊や部材の飛散によって自分に被害が生じる危険性を、身近な問題として捉えたことがこのテーマを選んだ動機です。調査の一環として前橋市役所を訪問し、空き家に対する行政の対応や、所有者不明物件、相続問題、解体費用の負担など、解決を困難にしている要因について話を伺いました。空き家問題は単に建物の老朽化という課題にとどまらず、法律、経済、地域コミュニティの在り方など、多面的な要素が絡み合う社会問題であることを理解しました。これらの調査を踏まえて私たちなりの空き家問題の解決策を考えました。

③探究を始める前、空き家は身近に存在していても特に気に留めることはなく、関心を持つ対象ではありませんでした。しかし、課題として向き合い、現状や背景を深く考えていくうちに関心が芽生え、問題の奥深さや社会とのつながりに気づきました。これまで見過ごしていた身近な風景が違って見えるようになり、自分の世界が広がったように感じました。また、発表資料の作成においても新たな学びがありました。これまでに何度もスライド発表を経験してきたことを活かし、「どのような構成や表現が見やすいのか」「どのように示せば納得しやすいのか」を自分なりに考えながら、聞き手のニーズに応えるスライド作りを心がけました。情報の伝え方を工夫し、相手の視点に立って表現を磨いていく過程そのものが、もう一つの探究であるように感じられ、深い達成感と感動を得ることができました。

【所見・アドバイス】空き家問題が地域社会の問題となりそうな(なっている)ことが思考できており、質問訪問は現在の行政の対応についての取材であり、それを踏まえて「解決策を考えた」ということですね。ここで一番の核心は「その解決策の提示と根拠」、そして「その検証(解決か新たな課題の発見か)」です。ここには記されていないのでどのような解決策が出たのかわかりませんが、これからが「探究」の始まりといったところでしょう。ぜひ3年の一学期でそこまで行ってくると、大学受験でも語れるレベルになるのではないのでしょうか。

※所見・アドバイスは教頭

【次号 152 号は「1年生の探究活動の報告」! 2 年生の続きは 153 号で!】